

「授業改善のための学生アンケート」2019年度前期 顕彰授業における工夫

2019年12月27日

白百合女子大学FD推進委員会

2019年度前期「授業改善のための学生アンケート」の顕彰授業における工夫をご紹介します。授業のあり方は授業の数だけありますが、顕彰された授業における工夫を知ることにより、よりよい学びのためのヒントが得られる機会になればと願っています。

【参考】 顕彰の対象となったアンケート項目は以下の9項目です。

- Q3 この授業に主体的に取り組むことができましたか。
- Q4 この授業の内容を十分に習得できたか。
- Q6 教員の話は聞き取りやすかったですか。
- Q7 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。
- Q8 教科書や配付資料など、教材は適切だったか。
- Q10 学生の質問や相談に対して、教員は適切に対応していたか。
- Q11 教員の説明や指示は教室全体に正確に行き届いていたか。
- Q12 この授業の目的や到達目標を十分に理解できましたか。
- Q13 この授業の内容に興味を持つことができましたか。

少人数部門

「教職論(小)」 牧口 典子(人間総合学部初等教育学科) 2019年3月前

本講義は、前担当者(神永典郎教授)の考えを引き継ぎ、教職課程の入門の授業として位置付けた。

工夫したこと

「リアクションペーパー等」に書かれた内容から次の工夫が学生に好評だったと考える。

○教職について講義・演習する中で、考えを交流する場を設定し、目指す教師像を描かせる。

「毎回、グループで話し合ったが、自分と違う考えに触れ、目が開かれた」「先生の学校の出来事や失敗談を聞きながら、どういう教師になればよいか考えた」

学生は講義を通して、生徒として経験したことを振り返り、担任の指導の意図に気付くことができた。また、私の学校で経験した話、失敗談に関心を示し、自分に置き換えながら聞いてくれた。

○鳥山小学校と連携し、授業参観や学習ボランティアを体験させる

「世田谷区立鳥山小学校の授業参観をし、教師は様々な指導の工夫をしていることに気付いた」

鳥山小学校の公開授業を参観した後、希望者は夏休みの算数教室で学習ボランティアに入るという関係を築いて9年目となる。今夏も受講生のほとんどが学習ボランティアに入った。

○専門性のあるゲストティーチャーの力を借りる

「ゲストティーチャーの話が広く深くて楽しかった。教師は苦勞もあるが地域・保護者に支えられていることが分かった。報告・連絡・相談をしてチーム学校の一員になりたい」
ゲストティーチャーの北村文夫先生は、教育委員会指導課長や校長、外部評価委員、大学教授(本校講師を含む)の経験をもとに、教師を取り巻く環境について話してくださった。

今回の受賞は、何より学生が教職に就きたいという強い意志をもって受講したことに因るものである。毎回、意欲的な学生たちと楽しく授業できたことは、教師冥利に尽き、学生に感謝したい。

多人数部門

「アニメーション制作Ⅰ」 やた みほ (人間総合学部児童文化学科) 2019 火 2 前

工夫した点

「アニメーション制作Ⅰ」は、アニメーションの基礎であるばらばら作りから始まります。その後、切り紙、粘土を使ったコマ撮り(少しずつ被写体を動かしては写真を撮る手法)へと進み、最後に好きな材料、道具を使った自由課題(白百合女子大学のCMやミュージック・ビデオなど)で締めくくります。

昨年度までは、デジタルビデオカメラを三脚に取り付けてアニメーションを撮影していましたが、撮った画像の動きをすぐに確認できなかったり、カメラが動いても気がつかなかったりと不便な点がありました。今年度からはiPadのアプリが使えるようになったため、撮った画像の動きをその場ですぐに見ることができ、また、編集、効果音やBGMつけまでできるようになりました。自分の力で最後まで作業を進め、完成させることができるようになったことが学生の達成感につながったのではないかと考えています。